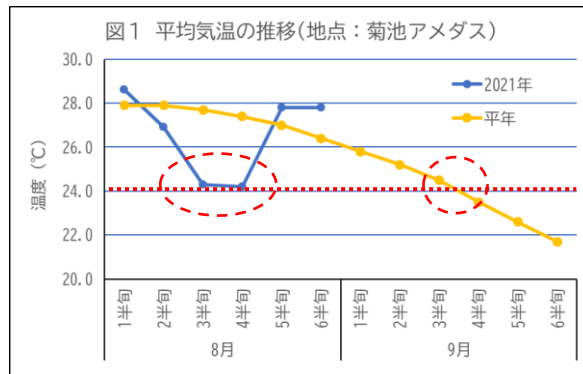


早期に花芽分化したイチゴ苗の管理方法について

令和3年(2021年) 9月7日
熊本県農業技術課農業革新支援センター

1 本年の気象条件と花芽分化状況について

熊本県内においては、令和3年8月3半旬～4半旬にかけ、平年の9月中旬並みに気温が低下しました(図1)。イチゴの花芽分化には、温度、日長、体内窒素濃度が関与することから、今回の低温遭遇の影響を確認するため、県農業研究センター育苗圃のイチゴ苗について花芽検鏡を行ったところ、平年よりも早期に花芽が分化している事例が見られました(写真1)。



2 今後の想定される影響について

早期に花芽が分化した苗(以下、**早期分化苗**と表記)では、育苗期間中に次花房の花芽も分化することが予想され、苗の栄養状態の低下により芯止まり(芽なし株)や過度の連続出蕾・着果による成りづかれ、出荷の山谷の発生等が懸念されます。

【**早期分化苗**の位置づけ(今回の場合)】

9月10日頃に花芽検鏡を実施した場合に、
・「内葉数2枚以内」で花芽が確認される苗

3 今後の育苗管理と留意点について

定植期までの対策として、以下の点に留意して管理を行います。

(1)花芽検鏡を必ず行い、花芽の分化状況を確認します。

①検鏡は、3 苗以上実施します。

(苗質にバラツキが見られる育苗圃は、苗質を分け検鏡することも必要です。)

②**早期分化苗**は、次の成長点の花芽分化状況を確認します(写真 2)。

(2)花芽分化の状況に応じて、次のとおり苗の管理を行います。

① 早期分化苗と普通苗が混在する場合

・普通苗の花芽分化(肥厚後期:ステージ3以上)が確認されたら、混在する**早期分化苗**も含めた全ての定植苗に、速やかに液肥灌注(1回目)を行い、定植後に再度、株元に液肥灌注(2回目)を実施します。

② 普通苗(例年の花芽分化ステージ)の場合

・花芽分化(肥厚後期:ステージ3以上)が確認されたら、速やかに液肥灌注を行い、定植します(栽培マニュアルに準じて管理を行います)。

(3)不時出蕾が見られたら、速やかに摘花房を行います。

9月10日の検鏡で

- ・内葉数1枚で花芽が確認された場合 : 9月中旬頃より
 - ・内葉数2枚 // : 9月下旬頃より出蕾が予想されます。
- (※内葉数は、クラウン内に潜っている葉から1枚とカウントした場合)

(4)早植えは避け、各地域の定植適期を遵守します。

(5)本圃に、2番花(第1次腋果房)確認用の苗を必ず定植します。

(定植後の花芽の生育状況の確認をするうえで重要です。)

【**早期分化苗**の生育状況(事例)】



写真1 (R3.9.2 撮影)

8月25日で顎片形成期(ステージ6)に達していたと思われる苗の状況
9月10日頃より出蕾する可能性がある

【**早期分化苗**の花芽検鏡】



写真2

△ 部分に着生する次の芽(成長点)の花芽分化の状況を確認する

以上、苗のコンディションを細かく観察し、管理をお願いします。

【お問い合わせ先】

農業技術課 (農業革新支援センター)

担当 白水

TEL : 096-333-2429 FAX : 096-381-8491